

# 国連NGO横浜国際人権センター・うずしおブランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾 ニュース

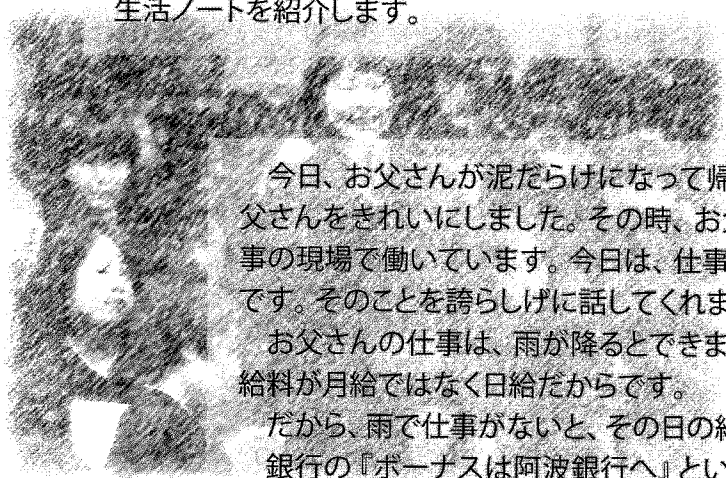
人権学習のキーワードは、「共感と連帯」「信頼と尊敬」「互いへの感謝」。これは、出会ってきた子どもたちに語り続けてきた言葉です。私は教師になった3年目、1984年に私を同和教育の世界に導いてくれた先輩教師にその手法を学び、子どもたちと日々の思いや願いを綴る生活ノートを始めました。

この生活ノートを綴る作業は、自己を語り合う人権学習と重なり合うように、子どもたちの人間性を磨いていき、私の教員人生を潤いのあるものにしてくれました。家族への感謝を語った私の語りに寄せて、綴ってきた生活ノートを紹介します。

今日、お父さんが泥だらけになって帰ってきました。お母さんとお姉ちゃん、妹と私の4人でお父さんをきれいにしました。その時、お父さんの笑顔がすごく輝いていました。お父さんは道路工事の現場で働いています。今日は、仕事の途中で雨が降り出したけど、仕事を頑張って続けたそうです。そのことを誇らしげに話してくれました。

お父さんの仕事は、雨が降るとできません。だから、みんなが休みの日も仕事に出ます。それは給料が月給ではなく日給だからです。

だから、雨で仕事がないと、その日の給料はありません。だから、できる限り仕事に出てくれます。銀行の『ボーナスは阿波銀行へ』という広告を見ると、あんなに頑張っているのだから、お父さんにもご褒美としてボーナスがあったらいいのになあと思うことがあるけど、お父さんは、私たちのためにすごく頑張ってくれます。お父さんは私たち家族の誇りであり、私の生きるお手本です。



1984年度、38年前に出会った生徒の生活ノートです。この生活ノートが、道徳資料「スダチの苗木」及び人権劇「スダチの苗木」の制作につながっていきました。



文部科学省中学校道徳教育読み物資料「スダチの苗木」(平成6年3月発行)  
〔資料の内容〕

厳しい肉体労働に生きる父と母の姿に感謝と敬愛の心を抱きながらも、父の仕事にこだわっていた筆者が、ふるさとに帰って、病氣入院中でも、母と力を合わせて働いていた父のことを知って、強い衝撃と感動に打たれる。そして、筆者は父が京都の下宿に植えていったスダチの苗木に思いを寄せ、スダチの花に自らの生き方を確かめるようになる。

本気の人権学習は、——「すべてを変える」 うずしおブランチ共同代表 森口 健司